

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年4月2日(2010.4.2)

【公表番号】特表2010-504769(P2010-504769A)

【公表日】平成22年2月18日(2010.2.18)

【年通号数】公開・登録公報2010-007

【出願番号】特願2009-525537(P2009-525537)

【国際特許分類】

A 6 1 F 9/007 (2006.01)

A 6 1 F 9/04 (2006.01)

A 6 1 F 7/08 (2006.01)

A 6 1 H 23/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 9/00 5 3 0

A 6 1 F 9/04 3 0 0

A 6 1 F 7/08 3 3 2 Z

A 6 1 F 7/08 3 3 1

A 6 1 H 23/02 3 3 0

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月8日(2010.1.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

哺乳類の眼瞼の治療のために調節された熱を供給する装置であって、
電気信号が印加されたときに熱を発生する加熱素子を備える加熱ユニットと、
加熱素子の指定温度範囲までの加熱を達成するために加熱素子に電気信号を印加する温度調節器と、
指定温度範囲内の眼瞼の調節された加熱を達成するために加熱ユニットを眼瞼と接するように結合する眼瞼接触機構と
を備える、装置。

【請求項 2】

加熱素子が抵抗加熱素子である、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

温度を感知し、温度調節器に温度情報を提供するセンサをさらに備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】

眼瞼接触機構が、眼瞼との接触を達成するよう加熱ユニットを移動させるために加熱ユニットに調整可能に結合された保護眼鏡を備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 5】

加熱ユニットが、加熱素子から眼瞼に熱を伝えるために加熱素子の表面に結合された熱ヒートシンクをさらに備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 6】

加熱ユニットが、眼瞼に向かう方向以外の方向への加熱ユニットからの熱損失を低減するために加熱素子の表面に結合された断熱材をさらに備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 7】

温度調節器が、加熱素子によって発せられる熱を調節するために加熱素子に電気信号を選択的に印加するスイッチを備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 8】

加熱ユニットが、眼瞼に適合するように眼瞼と接する柔軟な部分を備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 9】

加熱ユニットが眼瞼と接する剛性の部分を備え、剛性の部分が眼瞼の形状に適合するように成形されている、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 10】

加熱ユニットが、加熱ユニットを眼瞼に直接取り付けのための接着材をさらに備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 11】

ユーザに治療のための時間と温度の少なくとも一方を設定させるユーザインターフェースをさらに備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 12】

マイボーム腺からの分泌を刺激するための眼瞼に対する力を発生させる機械エネルギー発生器であって、眼瞼に、振幅と振動数の両方を有する機械エネルギーを与える前記発生器をさらに備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 13】

指定温度範囲が 37 より高いか、44 から 47 までであるか、または約 45 の前後の温度範囲を含む、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 14】

指定の治療時間の後に加熱素子への電気信号を遮断するタイマをさらに備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 15】

指定の治療時間が 10 分 より長い、請求項 14 に記載の装置。

【請求項 16】

加熱ユニットが眼瞼に当てられる際の圧力を測定する圧力センサをさらに備える、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 17】

眼瞼接触機構の一部が使い捨てにできる、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 18】

加熱器が眼瞼に加える圧力の量を設定する調整手段をさらに備える、請求項 1 に記載の装置。